

11月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎（6～8日）モハメッド6世国王のセネガル公式訪問
- ◎（7～18日）マラケシュにおけるCOP22開催
- ◎（18～19日）モハメッド6世国王のエチオピア公式訪問
- ◎（19～30日）モハメッド6世国王のマダガスカル公式訪問

<内政・政局・治安>

1 内政

● 憲法評議会に対する衆議院選挙違反の訴え

憲法評議会は、92の地方選挙区に関する136の選挙違反の訴えと、全国区に関する2の選挙違反の訴えを受理した。このうち、PJDが29の選挙違反の訴えを提起し、PAMは25の訴え、他の8つの政党は各々1つの訴えを起こした。訴えを起こされた当選議員は75選挙区の168名と発表されている。

2 治安

(1) 魚行商人の死亡事件に対する抗議やデモの拡大

(ア) 1日、アル・ホセイマの検察局長は、魚行商人の死亡に関する公文書の偽造と過失致死の容疑で、捜査判事の下へ11名を召喚したと発表した。

(イ) 検察局長は、捜査により、この行商人が他の者と共に所有していた魚の廃棄を妨げようとゴミ収集車の後方に登った際、この収集車の運転手がゴミ収集会社の職員から圧縮機を作動させるよう合図を受け、この圧縮機が作動し、同人は死亡したことを明らかにした。その上で、被害者に対する攻撃の指示は確認されていないため、これらの行為は過失致死の性質を帯びていると述べた。

(ウ) SNS上では、特にこの行商人に対する攻撃の指示の有無について、アル・ホセイマの住民の論争と怒りを引き起こしている。この中には、同人がゴミ収集車後方にいた際に、当局の責任者が圧縮機を作動させるよう命令したか、または自発的に作動させ

たと疑う者もいる。

(2) 5名のISIL支持者からなるテロ細胞の解体

(ア) 4日、中央司法捜査局（BCIJ）は、テトゥアンで活動した5名のISILを支持する過激主義者からなるテロ細胞を解体した。捜査により、ISILに忠誠を誓っていた容疑者らは、ISILのキャンプに参加するため、シリア・イラクカリビアへの渡航を計画していたことが判明しており、ISILのキャンプで訓練を積んだ後、ISIL指導者の指示に従い、モロッコでジハードを宣言することを計画していた。

(イ) この捜査により、全ての容疑者がISILの計画に加わり、容疑者のうち数名はこのテロ計画実行のため、テトゥアンの重要施設における目標を選定し、調査していたことが明らかになった。更に、容疑者らは戦闘能力を向上させるため、テトゥアン近郊の森で軍隊式の訓練を実施していた。

(3) 犯罪ネットワークの解体

11日、BCIJは、タンジェ及びウジュダにて4名からなる犯罪ネットワークを解体した。メンバーのうち1名は国際的な麻薬取引の罪により手配されており、他のメンバーのうち2名はテロ容疑により服役していた。同者らのうち1名は外国の過激主義者と関係を有しており、もう1名はモロッコでテロを企図していた過激主義グループに属し、シリア・イラクの紛争地域での戦闘を経験していた。残りの1名は誘拐、計画的殺人及び麻薬取引の罪により服役した後、2014年にベルギーからモロッコへ送還されていた。

(4) アルカイダのメンバーの逮捕

(ア) 19日、BNPJは国土監視総局（DGST）からの情報提供により、アズルーでアルカイダ及びシャーム征服戦線（旧ヌスラ戦線）のメンバーの過激主義者を逮捕した。

(イ) 捜査により、情報処理エンジニアであるこの容疑者はアルカイダの過激思想を拡散するため、専門分野の知識を利用していった。とりわけアルカイダ信奉者らの方針・教義を伝播するための電子プログラムやアプリケーションを設置していたことが判明した。また、同人が外国の個人口座のハッキングにも関与し、大金を奪取していたことが明らかになっている。

<外交・国際関係>

1 COP22関係

(1) 7日から18日までマラケシュで国連気候変動枠組条約第22回締約国会議（COP22）、京都議定書第12回締約国会合（CMP12）等が開催された。我が国からは、山本環境大臣を筆頭に関係各省から代表団が出席したほか、COP22の際にマラケシュで開催された列国議会同盟（IPU）会合に衆参両院から国会議員が参加した。

(2) COP22のマージンで、モハメッド6世国王は、潘基文国連事務総長（15日）、ブハリ・ナイジェリア大統領（15日）、ラホイ・スペイン首相（15日）、ケリー米 국무長官（16日）、オランド仏大統領（16日）、コンデ・ギニア大統領（16日）、カボレ・ブルキナファソ大統領（16日）、ニヤシンベ・トーゴ大統領（16日）、コロマ・シエラレオネ大統領（16日）とそれぞれ会談した。

2 アフリカ関係

(1) モハメッド6世国王のセネガル公式訪問

(ア) 6日から8日まで、モハメッド6世国王は、ムーレイ・イスマイル王子とともにセネガルを公式訪問した。国王の今次セネガル公式訪問には、エル・ヒンマ国王顧問、ズナギ国王顧問、アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣、ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほかが同行した。6日、国王はダカール到着後、緑の行進記念日演説を行ったほか（以下3（1）参照）、7日にサル・セネガル大統領と会談を行った。

(イ) また、モハメッド6世国王とサル大統領は、以下の政府間協定・民間セクター協定の署名式を執り行った。

- ① セネガルにおける小規模農業従事者・村落部支援のための資金供与にかかる政府間協定
- ② タコ育成・調整計画実施にかかる政府間覚書
- ③ モロッコ観光公社（ONMT）とセネガル観光推進庁（ASPT）間の観光推進・発展にかかる共通行動パートナーシップ協定
- ④ 社会連帯経済、手工芸、INDH・地域開発緊急計画のベストプラクティス共有の見本市設立のためのパートナーシップ協定
- ⑤ セネガルにおけるデジタル競争力センター設立のためのパートナーシップ協定
- ⑥ ラ・ヴォワ・エクスプレス社（モロッコ）とテックス・クリエ社（セネガル）間のジョイントベンチャー設立議定書

(2) モハメッド6世国王主催第1回アフリカ行動サミット

(ア) 16日、マラケシュで開催中のCOP22のマージンで、モハメッド6世モロッコ国王主催のアフリカ行動サミットが開催された。アフリカ各国からは、サル・セネガル大統領、ワタラ・コートジボワール大統領、デビー・イトゥノ・チャド大統領、カガメ・ルワンダ大統領、サス・ンゲソ・コンゴ共大統領、イスフ・ニジェール大統領、ボ

ンゴ・ガボン大統領，コンデ・ギニア大統領，サリーフ・リベリア大統領，バシール・スーダン大統領等が出席した。

(イ) モロッコからはモハメッド6世国王のほか，ムーレイ・ハッサン皇太子，ムーレイ・ラシッド王子，ファシ=フィフリ国王顧問，メズアール外務・協力大臣，ハッサド内務大臣，ブリタ外務・協力大臣付特命大臣，ハイテ環境担当特命大臣等が出席した。パートナー国・機関からは，オランド仏大統領，ロワイヤル仏環境大臣，ファビウス仏前外相，中・露・GCC諸国からそれぞれ環境大臣・気候変動特別代表級，国連から潘基文国連事務総長が出席したほか，世銀，アフリカ開発銀行が出席した。

(ウ) この会合で採択された第1回アフリカ行動サミット宣言では，①リオ原則，とりわけ気候変動の挑戦を克服するための「共通だが差異ある責任」の原則に基づいたSDGsの十分な実施の重要性，②気候変動対策の世界的な努力に貢献するためのアフリカ各国の具体的かつ実質的なコミットメント，③アフリカ人の正当な望みに応え，次世代の利益を保護する包括的で持続可能な開発の1つのモデルを構築するために，気候のための行動を新興のためのトリガーとする参加国の野心，④準地域的・地域的なアプローチを通じて，気候変動に対してレジリエンスのある1つのアフリカのために，集団的にかつ連帯して努力する意思等が確認された。

(3) モハメッド6世国王のエチオピア訪問

(ア) 18日から19日まで，モハメッド6世国王は，ムーレイ・イスマイル王子とともにエチオピアを公式訪問した。国王の今次エチオピア公式訪問には，エル・ヒンマ国王顧問，ズナギ国王顧問，ブーサイド経済・財政大臣，アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣，ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほか同行した。モハメッド6世国王はムラトゥ大統領と会談したほか，ハイレマリアム首相と会談した。

(イ) 19日，同国王は，ハイレマリアム首相とともに，エチオピアにおける肥料製造工場建設計画（37億ドル規模）を発表したほか，ムラトゥ大統領とともに，以下の政府間協定・民間セクター協定の署名式を執り行った。

- ① 経済・科学・技術・文化協力協定
- ② 航空サービス協定
- ③ 貿易推進覚書
- ④ 二重課税・所得税回避防止協定
- ⑤ 投資促進・保護協定
- ⑥ 農業協力協定
- ⑦ 再生可能エネルギー協力協定

(4) モハメッド6世国王のマダガスカル公式訪問

(ア) 19日から30日まで，モハメッド6世国王は，ムーレイ・イスマイル王子とともにマダガスカルを公式訪問した。国王の今次マダガスカル公式訪問には，エル・ヒンマ国王顧問，ズナギ国王顧問，メズアール外務・協力大臣，ブーサイド経済・財政大臣，

アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣，ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほかが同行した。

(イ) モハメッド6世国王はラジャオマリマンピアニナ・マダガスカル大統領と会談したほか，同大統領とともに22本の政府間協定・民間セクター協定の署名式を執り行った。また，モハメッド6世国王はアンチラベ等の地方視察を行った。なお，26日にアンタナナリヴオで開催された第16回仏語圏サミットには，モハメッド6世国王の代理として，メズアール外務・協力大臣が出席した。

(ウ) 署名された協定は以下のとおり。

- ① パンガラ運河付加価値化・保全計画覚書
- ② 農業協力協定
- ③ 鉱物採掘・鉱石選鉱協力協定
- ④ 政治協議設立議定書
- ⑤ 水資源・気象分野協定
- ⑥ 環境協力協定
- ⑦ 行政近代化覚書
- ⑧ 若年層・スポーツ協力協定
- ⑨ 二重課税・所得税回避防止協定
- ⑩ 再生可能エネルギー協力協定
- ⑪ 海洋漁業協力協定
- ⑫ 職業訓練協定
- ⑬ モロッコ人民中央銀行（BCP）とマダガスカル政府間のパートナーシップ協定
- ⑭ モロッコ観光公社とマダガスカル政府間の覚書
- ⑮ タンジェ・地中海特別庁（TSMA）とマダガスカル港湾・海洋・河川庁間の協力協定
- ⑯ カサブランカ・ファイナンス・シティ庁（CFCA）とマダガスカル経済開発委員会間の協力議定書
- ⑰ モロッコ経団連（CGEM）とマダガスカル企業連合間の協定計画
- ⑱ 関連銀行間の覚書
- ⑲ マダガスカルにおける農業保険の設置と発展のための協力枠組み協定
- ⑳ BMCEアフリカ銀行とシプロマッド・グループ間のパートナーシップ協定
- ㉑ BCPとシプロマッド・グループ間のパートナーシップ協定
- ㉒ アティジャリワファ銀行とマダガスカル商業国立銀行間の覚書

(5) モロッコによるズマAUC委員長非難

30日，モロッコ外務・協力省はズマAUC委員長を非難する要旨以下のコミュニケを発表した。

(ア) モロッコは，AUにおけるその自然かつ正統な地位を回復するというモロッコの決定を妨げようとするAUC委員長による継続的な策略を強く告発する。

(イ) ズマ女史は不当な方法でAU加盟国にモロッコの要求を伝えることを遅延させた後も、AU文書やその慣行に根拠のない前代未聞の新しい手続的な要請を急に行うことにより、その妨害行為を継続している。この新しい要請により、同女史は、AU加盟国の外務省から発出されたモロッコ支持の書簡を恣意的に棄却しようとしている。

(ウ) AUC委員長は、その中立性の義務、AU規則及びAU加盟国の意思と相反している。

(エ) モロッコは今日まで、AU制定法で要求されている以上の大部分の加盟国の支持を得ている。これらの加盟国はズマ女史に対し、次回AUサミットからモロッコをAUに復帰させるための形式的・法的に有効な支持の書簡を既に発出している。

3 西サハラ関係

(1) 第41回緑の行進記念日におけるモハメッド6世国王演説

6日、モハメッド6世国王は訪問中のセネガル・ダカールにおいて第41回緑の行進記念日の演説を行った。国王は演説で、アフリカとの協力関係について、10月に訪問したルワンダとタンザニアを例に挙げつつ、西アフリカと中央アフリカに限定することなく、全てのアフリカ諸国と協力関係を強化していく旨述べた。また、モロッコのAU復帰の決定は戦術上のものではなく、深慮の末の必然的な決定である旨述べ、AU復帰の重要性を強調した。更に、モハメッド6世国王は、モロッコのAU復帰により、西サハラ問題にかかるモロッコの立場に変更が生じることは全くない旨明言した。

(2) モロッコほかアラブ諸国による第4回アラブ・アフリカ・サミットからの退出

22日、モロッコ外務・協力省は、モロッコを始めとする9か国のアラブ諸国が、議場に「サハラ・アラブ民主共和国(SADR/RASD)」の旗があることを理由に、赤道ギニアで開催されている第4回アラブ・アフリカ・サミットを退出したとする要旨以下のコミュニケを発表した。このほか、モロッコ外務・協力省は退出しなかったクウェートに対して遺憾の意を表している。

(ア) モロッコ、サウジアラビア、ア首連、バーレーン、カタール、オマーン、ヨルダン、イエメン及びソマリアは、議場に傀儡団体(RASD)のエンブレムがあることから、赤道ギニアで開催されている第4回アラブ・アフリカ・サミットから退出した。

(イ) モロッコとこの8か国のアラブ諸国は、アラブ・アフリカ行動原則の非尊重を支持せず、共通権益の放棄を前に責任を取ることはできないため、当該サミットから退出せざるを得なかった。

(ウ) これらの原則のうち国家の領土一体性の尊重にかかる固有の原則として、アラブ及びアフリカにより開催される活動への参加は国連加盟国のみに限定されなければならないが、議場に傀儡団体のエンブレムがあることから、当該サミットでは遵守されなかった。

(エ) ほとんどの国々は、国際法の原則就中国家主権と領土一体性の尊重に合致した明

確なこのモロッコの立場を支持した。

(オ) サミットからの退出を表明したモロッコとその他のアラブ諸国は、アラブ・アフリカ・パートナーシップ、アラブとアフリカの2つのグループの連携強化、世界の平和と安全の推進のためのアラブ・アフリカ・サミットの役割等の重要性を常に認識している。また、これらの国々は、国家主権、領土一体性や平等な取扱いを尊重しつつ、アラブとアフリカの市民の尊厳を発展・保護するという市民の期待に応える重要性を常に認識している。

(カ) 2010年にシルテで行われた第2回サミット及び2013年にクウェートで開催された第3回サミットを通じて、これらの国々の当該原則の尊重は強く維持されており、今後も維持される。これらの原則の尊重は、アラブ・アフリカ・パートナーシップを発表することを可能とした共通原則を遵守するという懸念と同様のものである。

(キ) しかしながら、過去のアラブ・アフリカ・サミットで確立された当該原則の尊重のためのこれらの国々及びその他の国々による誠実かつ責任ある努力にもかかわらず、この状況は変わらなかった。よって、これらの国々は、アラブ・アフリカ行動原則の非尊重を支持しないとともに、アラブ・アフリカの市民が未来を築き、直面する安全と開発の挑戦に対応するための共通権益を放棄することはできないため、当該サミットから退出せざるを得なかった。

(ク) モロッコとその他のアラブ・アフリカ諸国は、このアフリカの友好国で開催される当該サミットの成功を完全に支持し、その成功のための最良の条件を保証するよう留意してきた。これらの国々は、その多大な努力のために議長国である赤道ギニアの政府と国民に対する敬意をここに一新する。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
11月6-13日 (うち6-8日が公式訪問)	セネガル	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, ズナギ国王顧問, アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	公式訪問, サル・セネガル大統領との会談, 協力協定署名式出席
11月18-19日	エチオピア	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, ズナギ国王顧問, ブーサイド経済・財政大臣, アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	公式訪問, ムラトゥ大統領との会談, ハイレマリラム首相との会談, 協力協定署名式出席
11月19-30日	マダガスカル	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, ズナギ国王顧問, メズアール外務・協力大臣, ブーサイド経済・財政大臣, アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	公式訪問, ラジャオマリマンピアニナ大統領との会談, 協力協定署名式出席
11月28日	カタール	ララ・ハスナ王女	第3回国際保健イノベーションサミット出席
11月29日	チュニジア	メズアール外務・協力大臣	国際投資会合出席

<外国要人のモロッコ訪問>（注：COP関連は確認できた分のみ。順不同）

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
11月7-18日の期間中	我が国	山本環境大臣，北川衆院議員，田島衆院議員，酒井参院議員，武田参院議員ほか	COP22出席
	ポルトガル	ダ・コスタ首相	
	国連	潘基文事務総長	
	UNFCCC	エスピノーザ事務局長	
	ナイジェリア	ブハリ大統領	
	スペイン	ラホイ首相	
	米国	ケリー国務長官	
	仏	オランド大統領，ロワイヤル環境大臣，ファビウス前外相	
	ギニア	コンデ大統領	
	ブルキナファソ	カボレ大統領	
	トーゴ	ニヤシンベ大統領	
	シエラレオネ	コロマ大統領	
	セネガル	サル大統領	
	コートジボワール	ワタラ大統領	
	チャド	デビー・イトゥノ大統領	
	ルワンダ	カガメ大統領	
コンゴ共	サス・ンゲソ大統領		
ニジェール	イスフ大統領		

	ガボン	ボンゴ大統領	
	リベリア	サーリーフ大統領	
	スーダン	バシール大統領	
	イラク	マアスーム大統領	
	豪州	ビショップ外務大臣	
	ボツワナ	カーマ大統領	
11月27-29日	ロシア	マブリン憲法裁判所副 長官	憲法評議会関係者との 会談

(了)